

第19回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成25年7月12日（金） 18時30分～21時

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 19人 *欠席 3人 山崎委員、児玉委員、鈴木委員
- (2) 事務局 6人 *教育委員会企画課 大崎課長、池田統括管理主事、市倉課長補佐、小口主査、安井主査補、望月主査補
- (3) 傍聴者 6人

4 報告・議題

- (1) 協議会委員の確認について
- (2) 【報告1】 前回協議会について
- (3) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
- (4) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
- (5) 【議題2】 次回開催日時・場所について
- (6) 【議題3】 その他

5 会議資料

資料1：第14～18回千城台地区学校適正配置地元代表協議会（概要）

資料2：協議の進め方

資料3：平成27年4月に小・中学校統合を想定した場合の教職員の構成

資料4：小学校統合（シミュレーションAに想定）に係る中学校の通学区について

参考資料1：シミュレーションA（2番）・B（5番）の比較

参考資料2：「小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション（現行の学級編制）」

参考資料3：中学校の生徒数推計・統合シミュレーション

参考資料4：千城台地区小・中学校の施設概要

6 議事の概要

(1) 協議会委員の確認

千城台北小学校の委員について、岡PTA会長から変更の申し出があり、副会長の植田氏となることが確認・承認された。

(2) 【報告1】 前回協議会について

事務局が前回協議会での協議の内容について説明し、確認した。

(3) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて

事務局が前回協議会以降の動きについて説明した後、各協議会委員から報告を行った。

(4) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について

事務局が「平成27年4月に小学校統合を想定した場合の教職員の構成」「小学校統合（シミュレーションAに想定）に係る中学校の通学区について」を中心に説明を行った後、協議を行った。

その結果、次回も引き続き、27年4月の統合を目指して小学校の統合協議を行うことが確認

された。

(5) 【議題2】 次回開催日時・場所について

次回協議会は、8月に開催する方向で、会長・副会長と事務局で相談の上、改めて各委員に連絡することとした。

(6) 【議題3】 その他

特に協議事項なし

7 発言要旨

(1) 会長挨拶 (氏家会長)

4月21日以降「協議会だより第4号」を第24地区連の全家庭(8400世帯)に配布している。小学校の統合シミュレーションにおいて、A案とB案に絞ったことを地域住民に周知しており、いよいよ協議会委員の見識を持って決断する時がきている。本日は、学校・自治会・学校評議員等で集まり話し合ってきたことを意見集約して報告していただく。協議結果として一定の方向性が出せればと考えるので、よろしく願います。

(2) 報告

報告 前回協議会およびそれ以降の動きについて

〈菅原議長〉 「前回協議会およびそれ以降の動き」について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 「前回の協議」と「それ以降の動き等」に分けて報告する。まず、「前回の協議」については資料1をご覧いただきたい。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

(前回協議された概要)

○事務局が「協議の進め方、平成27年4月統合を想定した場合のスケジュール」「シミュレーションA(2番)・B(5番)の比較」「現行学区での児童数推計」「千城台地区の小学校における学区外通学児童の人数」についてを中心に説明を行った後、協議を行った。

○協議の結果、次回も引き続き、27年4月の統合を目指して小学校の統合協議を行うことが確認された。

次に、「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○事務局が出向いての説明・意見交換

6月8日(土)千城台西中学校区青少年育成委員会総会

〈菅原議長〉 ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈一同〉 特になし

〈菅原議長〉 次に、前回の協議会以降、団体ごとに集まり、話し合いをしてきていると思うので、学校PTA、自治会、学校評議員の各団体代表の方、ご報告をお願いしたい。

〈栗山委員〉 学校PTAでは、6月22日(土)に小・中学校の委員が集まり協議した。始めに意見を聞いたが、シミュレーションAに賛成した学校は小学校1校、中学校2校、Bに賛成は小学校4校となり、意見が分かれた。協議の後、中学校は中学統合を反対しているのにBでは説明がつかないということから、一応、シミュレーションAで検討していくことになった。

この結果を小学校は持ち帰り、再度集まって協議した。小学校4校しか集まらなかったが、そこでは結果としてシミュレーションBにまとまった。

また、南小の本部役員と一部の方々の意見では次のような話が出たので紹介する。

- ・シミュレーションAだと統合する意味がない。
- ・中学校は、統合した方がよい。
- ・シミュレーションBは、学級数に伴い教員も増えるので、良い教育環境となる。
- ・シミュレーションAを良いとする人は、家から近いとかだけであり、子どもたちの教育ではないところにポイントを置いている。

明日、常任委員会があるので、南小として最終的に決定したいと考えている。

〈谷野委員〉 自治会としては5自治会で集まって話し合った。その結果をプリントで報告する。

千城台地区学校適正配置（学校統合問題）に対する自治会側の見解

1 現状認識

(1) 児童・生徒数の推移と学級数と学校配置数

	H27	H28	H29	H30	H31
小学校児童数	1034	981	979	929	866
必要学級数	26	25	24	23	22
理論学校配置数	2.17~1.08	2.08~1.08	2.00~1.00	1.92~0.96	1.83~0.92
適正学校配置数	3	3	3	3	3
中学校生徒数	659	617	573	561	557
必要学級数	16	15	14	14	14
理論学校配置数	1.33~0.67	1.25~0.63	1.17~0.58	1.17~0.58	1.17~0.58
適正学校配置数	2	2	2	2	2

必要学級数＝児童数／40人（注1）

理論学校配置数＝必要学級／学校規模（12～24学級）

（注1）38人学級の場合は105%増、35人学級の場合は114%増となる。

⇒適正学校配置数とする。

【まとめ】

40人学級を理論値として算定すると、千城台地区の学校配置数は小学校の場合3～2校、将来的には2～1校もあり得る。中学校の場合は2～1校、将来的に1校もあり得る。

(2) 学校設立の歴史的経緯

千城台地区の小学校及び中学校は、夫々、街の繁栄とともに約40年の歴史を有しており、学校は地元地域住民生活と密着しつつ現在に至っている。

【まとめ】

一般論として少子高齢化は今後とも進行すると想定されるが、一方、児童生徒数は千城台地区の住宅の立替など変容も起こっており、増加する可能性もある。又周辺地域からの学区外入学も期待できる。従って、学校配置数は余力を持ちながら対応しておくのが得策である。

2 自治会側からの見解

A案（小3校、中2校）を選択する。

【理由】

- (1) 前提として、上記1に述べた現状認識に立ち検討した。
- (2) 小学校は現在の5校から3校にする。児童数の増加要素を考慮し余力を持って対処する。2校の廃校は複数学級化という、より良い教育環境づくりのために止むを得ない。
- (3) 中学校については、現状の2校体制で運用が当面可能である。また、両中学校PTA会長、評議員の意向（世論）も配慮すべきである。しかし、将来的な統合は検討課題になると思われる。

【問題点と対処方法】

問題（1）平成30、31年に一部単学級が発生するとの予測がある。

⇒今回、年々の住民の移動、周辺環境の変化により児童数が大きく変動することも確認されている。数名の出入りにより、学級数が2→1学級になるという理不尽な面もあり取り越し苦労の危惧がある。従って、変動予測の範囲と捉えて許容する。その時点で2学級にする英知を絞ればよい。

問題（2）ねじれの問題について

⇒学区変更により対処する。特に、御成台からの子どもたちが（20～30名）東小⇒南中へ行くことの学区選択を容認する。又は、個別事情による学区外入学で対処する。

問題（3）いわゆる、良い先生の招致、加配教師、クラブ活動の充実、小中連携、周辺高校、大学との連携等教育環境の改善策について

⇒学校経営上の課題であり、学校統合後の検討事項として提起しておく。

3 今回の学校統廃合検討に関する総合的課題（意見）

- (1) より良い教育環境とは、住民とともにあることが大切である。そして、虐めの問題、不審者の対応、通学の安全など今日的課題に対応する。
例：地域の管理スパンの範囲をあまり拡大しない。
- (2) 学校施設は街の共有財産であり、公共施設としての活用面も配慮する必要がある。千城台地区の小5、中2校の計7施設は、現状夫々の地域にバランス良く配置されている。過去40年の歴史の中で、多方面の人々から当該施設が利用されている。又、最近は大災害時の学校施設の役割が重視されている。
例：地域に1公共施設の配置。現状のバランスを配置する。
- (3) 勿論、将来的な姿として、小2、中1又は小1、中1の大改革論もあるが、これは、制約条件（財政面で新設校は作らない）の中で実行するのは難しい。
- (4) 今回の学校適正配置問題の原点に立ち返って、何を改革し、何を守るべきかの観点で総合的に判断したい。
例：小学校の複数学級化は当面の課題として、可能な限り実現する。

（A案でも99%実現）

中学校は複数学級の現状を考慮し、当面は統合しない。 以上

- 〈土屋委員〉 学校評議員としても、全員ではないが集まって、協議したので報告する。
結果は、A案5人、B案2人となり、総じてA案となった。理由として、A案は概ね複数学級はできており、現実的に考えると当面は3校でよいということからである。中学校を2校とすることは、現在、2つの育成委員会がそれぞれ活動していることは生徒指導上、とても大切であると考えからである。
個人的には、大規模校にすることは賛成ではない。各学年2学級程度の規模が落ち着いて良いと考えている。具体的な事項については、より良い教育環境にすることは賛成であり、要望書の中でしっかり盛り込めばよい。
- 〈菅原議長〉 両育成委員会としては、各団体の調整役という立場上、どちらとも言えないことをご理解いただきたい。
- 〈氏家会長〉 第24地区町内自治会連絡協議会としては、36の自治会代表にアンケートをとったので報告する。(プリント配布後、説明)

学校統合問題に関するアンケート結果について (報告)

- ・実施日 2013. 6. 24 ~ 7. 3
- ・対象者 加盟組織自治会長 (36)
- ・回収率 92% (未回答3)
- ・方法 A案とB案の選択を問う。
両者の案については、過去数回にわたって説明済みであり、今回は4月21日全戸配付済みの地元協議会だより第4号に基づき、総合判断としてA案とB案の選択を問いました。

【アンケート集計結果】

総会 (4/21) で説明したA案、B案の概要は次の通りです。

詳細は地元協議会だより第4号を参照してください。(全戸配付済み)

(現在) 5小学校：北小・西小・南小・東小・旭小 2中学校：南中・西中

統合A案：3小学校 (北+西)・東・(南+旭) 現在の2中体制のまま

統合B案：2小学校 (北+西+南)・(東+旭) 1中学校 (南+西)

✓どちらかと言えば A案：20 (61%) B案：7 (21%) 不明：6 (18%)

ご意見をお聞かせください。

生徒数増減の不確定要素を考慮し当面A案が良い/B案が良いが、世論動向でA案も仕方なし/クラブ活動はもっとおおらかに親は静かに見守る/東西南北に1校配置のA案が良い/2中学校とも複数学級あり統合不要、小学校は3校のA案で良い/A案で1中も可/統合するなら大胆なB案でも良い/保護者の意向を尊重すべき/よく分からない/地元に統合要望を出させる教育委員会の姿勢はオカシイ/B案で通学遠距離化はスクールバスで対応可/小学校は全て単学級が無くなる統合B案で良い等々

以上

(3) 協 議

議題(1) 千城台地区小学校の適正配置について

〈菅原議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 新しい資料を中心に説明する。(資料3・4)

○資料3の説明 平成27年4月の小・中学校統合を想定した場合の教職員の構成

- ・学校適正配置に伴う教員等の配置について
- ・小学校及び中学校の教職員数について

平成25年度の教職員数(実数)と平成27年度に統合した場合の教職員数(想定)

○資料4の説明 小学校統合(シミュレーションAを想定)に係る中学校の通学区

- ①御成台地区の通学区の経緯
- ②現行学区における両中学校の推計
- ③御成台地区におけるねじれの解消方法

〈解消方法1〉 中学校を統合する。

〈解消方法2〉 御成台地区を南中学区に学区変更する。

※「御成台地区は入学時に西中、南中を選択できるようにする」ことについて

- ・千葉市では「地域の子どもは地域で育てる」という方針のもと、学区制をとっているため、学区を自由に選択できない。
- ・御成台1～3丁目を現行(西中区)のまま、南中への学区外通学承認地域にすることも、根本的に「ねじれ解消」の策にはつながらないため認められない。ただし、「ねじれ解消」のため、学区変更(西中区→南中区に変更)については、地域住民(自治会)の総意による申し出があれば、教育委員会として検討していくことが可能である。また、各家庭の個別な事情により申請いただき、その事由が学区外通学承認事由に該当するときには、個別審査の上で、学区外通学を認める場合もある。ただし、「通学のねじれ」は学区外通学承認事由には該当しない。

※「学区変更の手続き」について

通学の変更には、まず当該自治会の中で、変更になる学校の所属団体との関わり合いも含め、地域コミュニティとの整合性を考慮し十分協議していただき、自治会の総意として合意していただく必要がある。そして、統合に伴う通学区の変更では、地元代表協議会で通学区の指定を含めて協議し、合意された場合、「統合の要望書」に学区変更についても盛り込み、教育長に提出していただく。

○参考資料1～4については、前回と同様の資料

次に、前回の協議会で「平成27年度シミュレーションBにおける3校統合のシミュレーションを検討してほしい」という要望に対して、事務局で再度検討したが、どの方法も現実的に実施することが難しいと考える。具体的には、次のとおりである。

○「仮設校舎を増築して対応する方法」について

子どもたちの教育環境の改善を目的として取り組む学校適正配置において、統合の結果としてプレハブ校舎を使用しなければならないことや、校庭が狭くなる、余裕教室がなくなる等の環境にすることは、一般的に理解が得られない。

○「西中学校の一部を小学校の校舎として使用する方法」について

小学校用校舎と中学校用校舎は構造が違うため、大規模改修が必要となるが、改修工事の期間を確保することができない。

○「北小学校の特別支援学級だけを残す方法」について

特別支援学級の教員は学校全体の校務分掌も担当するため、分離して設置することは、学校運営上、支障をきたすこととなる。また、普通学級との交流もしにくくなることなどから、実現が難しいと考える。

また、その他の方法として、次の2点についても検討した。

○「特別支援学級の使用教室数で調節する方法」について

特別支援学級は1学級8名という学級編制となるが、教室の大きさについては、法令上定まっていない。学校によっては、1つの教室に仕切りを入れて、2教室とし、使用しているケースもある。

○統合を二段階に分けて行う方法

統合の第一段階を平成27年とし、第二段階を教室不足が解消した年度に設定した場合、対応は可能となる。

しかし、この2点については以下の理由から実施することは難しいと考える。

- ・統合により、数年間は特別支援学級の教室が狭くなり、統合前よりも教育環境が悪くなる。
- ・二段階目に統合する小学校は、それまでの間、小規模校化が続いてしまう。

〈菅原議長〉 事務局より説明があったが、質問や意見はあるか。

〈大和久委員〉 資料4で「地域の子どもは地域で育てる」という方針があるのに、特別支援学級は学区外通学が多い状況であり、千城台地区としては迎えているにも関わらず、統合に伴って増築するぐらいの配慮があっても良いのではないか。

〈事務局〉 「地域の子どもは地域で育てる」という方針は、本市では自由学区制をとっていないという考えからきている。特別支援学級は、6割以上の学校に設置されてきているが、まだ偏りがある。北小の特別支援学級については、教育活動の取り組みに対して保護者の評価が高く、学区外から集まっている。統合のために、現在の特別支援学級を分散させることは難しいと考える。

〈土屋委員〉 持ち帰るまでの問題ではないということか。

〈事務局〉 持ち帰って検討した結果、先ほどの説明のとおりとなった。千葉市の小・中学校全体を考え、他地域も含めてフラットに見ながら進めている。学校適正配置は、既存の校舎施設を大規模改修し、リニューアルして使用する方針で、先行地区においてもご理解いただき進めてきている。千城台地区の要望を叶えるために、校舎の増設を認めることは難しい。

〈大和久委員〉 フラットに考えるということだが、地元の要望に対して努力して解決するなどの配慮があってもよいのではないか。

〈事務局〉 特別支援学級がすべての学校に設置されていない現状の中で、市全体として考え検討しているということである。

〈綿貫委員〉 中学校の統合も関わるため、教職経験から意見を言わせていただく。小学校は学級担任制であるが、中学校は教科担任制である。学級数に伴い教員が配置されることから、小規模校においては、教員も少なく、音楽等の指導時間数が少ない教員については、他教科も教えることとなる。教員としては、専門でない教科を教えることは自信がな

いため、子どもたちや保護者にも不安を持たせることになる。このようなことから、複数学級となる規模にすることは大切であると考えます。

- 〈佐々木委員〉 学校PTAとしても、そのような考えから、シミュレーションBに賛成している。自治会としては、シミュレーションAを押しているのではないかと。
- 〈綿貫委員〉 自治会の委員で集まり協議した結果、様々なことを考えてシミュレーションAとなり、私も賛成ではあるが、個人として考えていることを参考までに述べた。
- 〈奥田委員〉 綿貫委員の説明していることを支持して、シミュレーションBを押している。
- 〈谷野委員〉 シミュレーションAは3小2中、Bは2小1中。Cとして3小1中があればベストかも知れない。
- 〈大和久委員〉 西小で協議した結果としては、数合わせ的なものでなく、小中連携を柱とする魅力ある適正配置を希望し、10年先の方々に小中連携から小中一貫教育へステップアップしていただき、千城台地区を文教地区に生まれ変わらせることを期待するということである。
- 〈綿貫委員〉 参考に経験から述べると、先生方は、あまり小規模校には行きたがらない傾向がある。
- 〈大和久委員〉 そういうプロフェッショナルな意見を今後とも示していただきたい。
- 〈石原委員〉 両中学校でアンケートをとったと聞いているが、簡潔に説明してほしい。
- 〈來住委員〉 西中・南中とも、同様のアンケートを生徒・保護者にとった。西中の結果は、生徒については統合に賛成16%、反対74%、その他10%、保護者については統合に賛成25%、反対64%、その他11%となり、統合に反対ということになった。反対の理由としては、今の校風を乱したくない、人生初めての受験をぐちゃぐちゃにしないしてほしいという意見が多かった。
- 〈笹川委員〉 南中のアンケートについては、生徒は345名中336名が提出した。結果は統合に賛成50（15%）、反対250（75%）、その他36（10%）となった。保護者は、344世帯中161世帯（47%）の回答があり、統合に賛成が62（38%）、91（56%）、その他8（6%）となった。反対の意見としては、子どもの意見を大切にしたい、いろいろな事情であえて南中を選んできている生徒もいるので、中学校が1つになると生徒指導上行き場がない子どもが出る等があった。
- 〈植田委員〉 北小としては、特別支援学級の問題が大きい。やはり、慣れ親しんだところがよいが先生方や地域の方々のフォローをしっかりといただければ、A案でもB案でも良い。決定したら、それに従い、環境に慣れていくしかないと考えている。
- 〈奥田委員〉 前回協議会で出た要望や課題に対して、教育委員会が検討してくれたことは良かった。方向性を示すというよりも、予測される課題に対して検討し回答してもらわないと先に進まない。アンケートに関しては、今在籍している子どもたちにとって反対するのは当然である。将来を見通して考えるならば、小学校高学年を対象とすることも必要ではないかと。
- 〈栗山委員〉 A案を選んでいる自治会としては、各地区に学校施設を1つ残せば良いということだと考える。そこで、1つの例であるが、統合案を考えてきたので説明する。
(プリント配布後、説明)

北小					西小+南小					東小+旭小				
27年	28年	29年	30年	31年	27年	28年	29年	30年	31年	27年	28年	29年	30年	31年
6	6	6	6	6	12	12	12	12	12	18	16	16	15	14
① 18	① 21	① 26	① 26	① 19	② 63	② 59	② 56	② 64	② 57	③ 114	③ 89	③ 91	③ 98	② 71
① 21	① 26	① 26	① 19	① 30	② 59	② 56	② 64	② 57	② 55	③ 89	③ 91	③ 98	② 71	③ 77
① 26	① 26	① 19	① 30	① 23	② 56	② 64	② 57	② 55	② 61	③ 91	③ 98	② 71	③ 77	② 58
① 26	① 19	① 30	① 23	① 25	② 64	② 57	② 55	② 61	② 56	③ 98	② 71	③ 77	② 58	③ 86
① 19	① 30	① 23	① 26	① 15	② 57	② 55	② 61	② 56	② 45	③ 71	③ 77	② 58	③ 86	② 63
① 30	① 23	① 26	① 16	① 26	② 55	② 61	② 56	② 45	② 46	③ 77	② 58	③ 86	② 63	② 53
140	145	149	138	138	354	352	349	338	320	540	484	481	453	408

北小を単独に残し、西小と南小、東小と旭小を統合し3校としてはどうか。より良い教育環境を目指して進めており、数合わせ的なA案ならば統合しない方が良いと考える。個人的には、中学校は統合しなくても良いが、統合した方が現状より良くなるかも知れないという期待を持っている。

〈佐々木委員〉 東小は、B案に賛成している。なぜ今の小学校の保護者が中学校のことを考えB案を支持しているのに、自治会や評議員の方々は賛同してくれないのか。

〈石原委員〉 現実的には、A案の方かなと思う。統合はすべきと考えるが、市は財政上厳しい。現状を考えると増築や中学校の意見等踏まえ、B案まではいけないと思う。それとも統合に伴う増築を求めて協議をしていくことになるのか。大和久委員の提案した推進委員会の発足は難しいのではないか。

〈大和久委員〉 学校評議員会のような形態を考えている。

〈鶴岡委員〉 より良い教育環境を考えると、各学年複数級の学級となる学校規模が良い。教職経験から振り返ると、各学年5学級くらいある場合、何事に対しても競争するようになり、教員も生徒も切磋琢磨して成長できる。すべての部活に多くの生徒が所属するようになる。自治会と同様にA案と考えているが、将来を見据えると中学校は1校にしていくことが良いと考える。

〈酒井委員〉 シミュレーションBに賛成である。

〈多田委員〉 ベストな解決策はない。ベターな案として、A案となった。中学校の統合についての議論がされていない中で、小学校統合の結論の期日がせまっている。実現可能性を考えるとA案となる。

〈綿貫委員〉 西町自治会としては、A案について小学校は57%、中学校は64%の賛成となり、A案となった。約900世帯あるが、14人の役員会で確認した。

〈中村委員〉 統合して先生や生徒が増えることは良い。現実的にA案に賛成である。

〈石原委員〉 全体の意見としてはB案に向かっているが、現実的に考えるとA案となるということである。

〈栗谷委員〉 中学校を統合できないので、A案でいくしかないということか。

〈石原委員〉 B案の良い点もわかるが、いろいろな制約がありすぎるのでA案ということである。

〈谷野委員〉 自治会では小学校の組み合わせの違いからもA案を押ししている。

〈栗山委員〉 A案は、単学級が発生してしまう。どうしたらよいか考えた結果、1つの案として先ほど説明した案となった。

- 〈谷野委員〉 A案もB案も定義が決まっているので、工夫した案も考えていくことは大切である。
- 〈栗山委員〉 各地域に1つは学校施設を残すとした場合を考えて至った案である。
- 〈谷野委員〉 この案は、中学校は1校となるのか。
- 〈栗山委員〉 その通りである。
- 〈多田委員〉 新しい提案だと思う。中学校を1つにしたら、マッチングした。しかし、中学校側は統合に反対という結果になった。また、小学校の学校規模をみると、バランスが悪い。
- 〈大澤委員〉 協議を重ねてきており、決断の時期もきている。B案は教室が足りなくなり、より良い教育環境にはならない。27年4月の統合となると、妥協を見出し、A案となると考える。
- 〈菅原議長〉 全体的には、A案が多いようであるが、再度、中学校の統合も含めて各団体で確認してくることとし、次回継続審議としたいがいかがか。
- 〈石原委員〉 持ち帰るに前に確認したい。B案については教室不足のための増築等はできないと教育委員会から説明があったが、そうなるとB案は無理ではないか。
- 〈酒井委員〉 教室不足の解決方法を再度教育委員会が考えてくればよいのではないか。
- 〈栗山委員〉 特別支援学級の対応も難しいとあった。
- 〈石原委員〉 A案かB案か決まらない場合はどうするか。
- 〈佐々木委員〉 統合をやめるか、継続審議とするしかない。
- 〈多田委員〉 A案かB案のどちらかを選ぶしかないのではないか。
- 〈佐々木委員〉 小学校からするとB案が良いと思っている。なのにA案といわれ、議事を先送りにされている気持ちである。中学校や自治会の方にお問い合わせしたいことは、小学校に行ってA案がいいという説明をしていただきたい。私たちB案を支持している委員が保護者にA案を進めることはできない。何がいいのかわからない。今回の連協のアンケートでも、東小学区の自治会の方に聞きたいのは、何を基準に判断したのかということである。聞き方や内容によって回答が変わってくることもあったのではないか。
- 〈氏家会長〉 それぞれの立場の人を尊重していただきたい。いろいろな立場から、周りの人の意見を踏まえて決断したはずである。異議があれば、その人に聞いてみるのが一番である。普段から、情報を伝え、意見交換をして進めていただきたい。
- 〈綿貫委員〉 先ほどの西町地区の協議結果について、補足する。小学校がA案は8人、B案4人となり、中学校がA案は10人、B案は4人となった。総合的にA案となった。
- 〈栗山委員〉 学校PTAからは、B案について地域に説明することはたくさんある。特に、B案のように先生方の人数が多い方が魅力的であり、より良い教育環境と言えるのではないか。
- 〈土屋委員〉 東小の学校評議員をしている。現在、東小は全校400名弱の児童数であり、各学年2学級ずつの規模となっているが、このくらいの規模が丁度良く、落ち着いていると思う。荒れた学校をみていると、概ね大規模校が多いようである。自分も分校・本校という小規模校の経験をして育ったが、今でもよかったと思う。
- 〈栗山委員〉 A案は、単学級が発生してしまうことが大きい。A案だったら、統合しない方が良いと考えている。
- 〈土屋委員〉 私も、以前から統合しないという選択肢もあると言ってきた。
- 〈大和久委員〉 もう1つ確認するが、小中連携の考え方については、反対はないか。
- 〈 一 同 〉 異議なし。(賛成)

- 〈事務局〉 今後の協議の方向性について確認したい。平成27年4月に統合とした場合、9月までに要望書を提出していただくことになるが、協議の進捗状況から統合時期は検討しなくて良いか。
- 〈氏家会長〉 期限ぎりぎりまで協議をして、その時点で判断するというのでいかがか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）

議題（2）次回の開催日時と場所について

- 〈菅原議長〉 協議（2）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いする。
- 〈事務局〉 概ね2か月に1度のペースで、「金曜日の夜に開催する」ということで実施してきた。各団体で協議内容を持ち帰り、報告をする期間も必要になることから、次回は9月上旬、具体的には9月6日（金）18：30～でいかがか。
- 〈佐々木委員〉 持ち帰って話す内容はないので、早めに開催できないか。
- 〈氏家会長〉 一度、持ち帰って報告していただきたい。要望があれば、私が各団体に説明に行ってもよい。
- 〈佐々木委員〉 次回は、本日の話し合いの続きで良いのではないか。
- 〈事務局〉 本日の協議会について議事要旨を作成する期間をいただきたい。
- 〈菅原議長〉 8月中に開催できないかという意見も出ている。
- 〈多田委員〉 8月初旬でどうか。
- 〈事務局〉 時間が過ぎているので、次回協議会は、8月に開催する方向で会長・副会長と事務局で相談の上、改めて各委員に連絡することとしてよろしいか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）
- 〈山崎副会長〉 最後に確認したい。B案については、中学校2校が統合反対というアンケート結果となっていることを踏まえて、十分考えてきていただきたい。
- 〈栗山委員〉 協議の結果、合意できなければ統合しないこともあり得る。

議題（3）その他

- 〈菅原議長〉 協議（3）「その他」であるが、委員の方々から何かあるか。
- 〈一同〉 特になし

（4）連絡

- ・次回協議会は、8月に開催する方向で会長・副会長と相談し、改めて各委員に連絡する。
- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。また、委員の確認を経て修正・確定した議事要旨を教育委員会ホームページで公開する。（*一同：異議なし）
- ・本日の協議内容について、各団体の方々にもお知らせいただきたい。

（5）会長挨拶（氏家会長）

本日も長時間にわたり真摯な協議に感謝する。協議会としての合意に向けて、引き続き十分な協議を行う中で、民主的に進めていきたい。合意の仕方はいろいろあるが、視野を広げて理論と世論から協議し、最大公約数的に絞り込み、協議会委員全員が納得できればと考える。